

科目名 (英語表記)	生活環境デザイン論 (Life Environmental Design)						ポートフォリオ
学年・学科	2年・建築学専攻		単位・期間	選択2単位・後期週2時間(合計30時間)			<学生が記入する上での注意事項>
担当教員	杉本弘文	連絡先	建築学科棟2階 第1研究室	オフィス アワー	月曜日 16:20~		【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。
【授業目的】 生活環境は人と人、人と活動(行為)、人と空間、活動(行為)と空間等の関係性によって紡ぎ出され、それらの関係性を如何に相互に浸透させデザインするかが人々の生活や暮らしの豊かさに大きく影響する。本講義では、建築・都市空間を含みこんだ生活・居住環境の計画・デザイン手法の基礎知識を学習する。				【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。			
【履修上の注意】 1)本講義は様々な建築・施設の設計や都市設計(まちづくり)につながる科目である。自らの作品づくり・提案に必要な創造(想像)力や思考力を養う機会とすること。 2)本講義の評価は適宜行うレポートにより行う。 3)授業で得る知識は設計競技や資格取得(福祉住環境コーディネーター等)につなげるためのものである。各自が積極的に課外活動に取り組むための機会とすること。				【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。			
【事前に行う準備学習や自己学習】(自己学習時間:60時間) 1)講義内で紹介する計画・設計手法をより深く理解するためには、自己学習として、座学のみならず受講者自らが自発的に建築・都市空間を体験したり、建築家らが計画・デザインした多くの設計事例を考察すること。				【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。 ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。			
【達成目標】 1)すまいづくり・まちづくりの近年の動向を理解し、これからの建築・都市空間の在り方を発案できる。 2)基礎的な生活・居住環境の計画・デザインの手法を理解できる。 3)都市設計(アーバンデザイン)の概念や基礎理論を理解できる。 4)生活環境デザインやアーバンデザインの手法を使って、自分の作品が提案できる。				<教員が記入する上での注意事項> 教員は、◎が付いているところだけを記入すること。			
学 習 到 達 目 標							
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 (A)	標準的な到達レベルの目安 (B)	未到達レベルの目安 (C)	ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。			
評価到達目標項目1	近年のすまいづくりやまちづくりの傾向を把握していると共に、これからの都市・建築空間の在り方や整備手法等を提案できる。	近年のすまいづくりやまちづくりの傾向を把握し、実例における手法や取り組みについて説明できる。	近年のすまいづくりやまちづくりではどのような手法が用いられているかを理解している。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目2	建築計画・都市計画・設計の手法を十分に理解し、適切な手法を用いてすまいづくりやまちづくりの提案ができる。	基礎的な建築計画・都市計画・設計の手法を理解し、地域の持つ課題に即した適切な手法を選択できる。	基礎的な建築計画・都市計画・設計の手法を概ね理解している。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目3	生活環境デザインやアーバンデザインの手法を十分に理解し、実在地域でのまちづくり活動等に応用できる。	生活環境デザインやアーバンデザインの手法を理解し、自分の提案作品に応用できる。	生活環境デザインやアーバンデザインの手法をある程度理解し、実例の説明ができる。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目4				【自己評価】 A ・ B ・ C			
到 達 度 評 価 (%)							
評価方法	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
指標と評価割合			100				100
総合評価割合			100				100
知識の基本的な理解			30				30
思考・推論・創造への適応力			30				30
汎用的技能			10				10
態度・志向性(人間力)			10				10
総合的な学習経験と創造的思考力			20				20
成績の評価方法について 適宜行うレポートによって評価する。 成績計算方法: レポート評価点の合計/レポート数 評価基準について ・総合成績60点以上を合格とする。							
【教科書】 なし							
【参考資料】 日本建築学会計画系論文集、まちづくりの教科書シリーズ(日本建築学会編【まちづくりの方法】、ISBN:978-4621085912他)、建築系学生のための卒業論文の書き方(井上書院、ISBN:978-4753010561)、まちづくりデザインのプロセス(日本建築学会編、ISBN:978-4818922143) その他適宜紹介する							
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)				【JABEE基準との対応】			
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)				(B) (d) (e)			

【授業内容】			【授業計画の説明】(実施状況の記入)	
授 業 要 目	内 容	時 間		
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1		
(1)生活環境デザインとは	今、何故生活環境デザインか ーデザインの発想と造形 住まいと生活・居住環境デザイン 建築・都市空間と生活・居住環境デザイン バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザイン コミュニティデザイン	1 2 2 2 2	【理解の度合】(◎教員は授業の実施状況を記入)	
(2)都市設計、まちのデザイン	まちづくりの方法とプロセス 人と人(1) 人と人との場の計画と設計 人と人(2) 人の集まる場、出会う場の計画と設計 人と車(1) 歩行者と車の分離と共存の手法 人と車(2) タウンモビリティ、交通システム 人と自然(1) 都市空間内における自然の採り入れ方	2 2 2 2 2 2		
(3)居住者(市民)参加型の すまいづくり・まちづくり	コーポラティブ・コミュニティ 合意形成のための手法 ーワークショップの方法・手法	2 2		
(4)設計・デザインへの展開	設計事例① 設計競技作品の解説 門前町の再生計画 設計事例② 設計競技作品の解説 中心市街地の再活性化	2 2		
合計時間		30		【総合達成度】 総合評価の点数()
【備考】				【評価の実施状況】(◎教員は総合評価を出した後に記入する。)